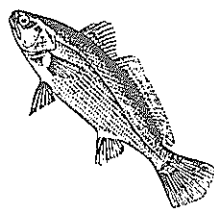


趣味

釣りの随想...③

グチの大食い

浜田広信(植田)



グチ

高知では通称グチ(ニベ)。体色は淡灰色で銀色光を帯びている。外洋魚であるが、秋から初冬にかけてときおり浦戸湾へ入り込む。これが入ると二、三日は食う。もとより外洋魚であるから湾の奥へは入ってこない。

釣りは浦戸の御殿下から奥造船所前(通称赤松前)だ。夜釣りでこの情報が入ると人気が沸き立つ。スズキの夜釣り程ではないがかなり舟が出る。ちょうどチヌ釣りの時期でもあるから両方をかけて行く。大食いに出合ふことはめったにない。ところが一年、その大食いにうかつした。

た情報を話したところ、直ちに今夜行こうと一決。その日の午後四時ごろから仕合いをして、自転車で日ごろ借り付けの長浜の舟屋に行き餌のゴカイを求め、長浜川尻から舟を出し釣りの浦戸の御殿前(浦戸の市場前、山内の別荘)から始めた。

仕合いはギリギリ五尺程度、道糸はナイロンの三号、ハリスは二号、鉤は五号のブラ。元来、底の砂地を好み餌をあさる魚であるから、早く落として釣るのが常識だが、その晩は底へ落ちつかないうちに早くもあたる。これは今晩は荷が重いと話し合った。

明日の動めがあるから夜中に中止すると言いだし、これくらい釣れば堪能、堪能と言うので中止した。そして、波の静かなところに舟を漕ぎ寄せて行く途中、釣り糸を二人がそのままにしていたところ二人ともまだグチが食いついている様子であった。

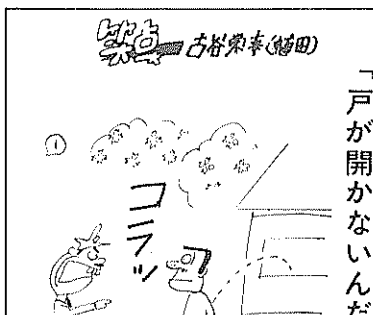
友人が堪能、堪能と言ったのはこのときである。今でも耳の底に覚えている。ナポレオンは不可能という言葉は余の辞書に無し。魚釣りに堪能という言葉は余の辞書になし。釣りは元来、漁師根性からきているので、いくら釣ってもこれで満足ということはない。翌日、朝まで釣った人に聞いたところ、みんな餌釣り釣ったとのこと。あまりうまい魚でもないが、東京では刺し身または焼き付け料理にするそうである。朝鮮では白菜を漬けると同じ時期に取れる

ので漬物の味取り用として重宝がられる趣。今でも秋から初冬にかけて浦戸湾に入る。しかし、田舎に帰れば情報が入らない。植田にいた釣り好きのいとこが、西風が吹けばグチが入ったかもしれないと言つて二、三回誘われて行ったことがある。むてっぽうに行つてもなかなかあたるものでもない。こちらが愚痴を言いたい。



170

ご家庭で話し合つて答えてください。答えは、この広報に出ています。もんだい、建設が進められていた大森小体育館、十市小体育館、市立〇〇体育館が完成しました。



「戸が開かないんだ」
第18回当選者発表(敬称略)
応募総数49通
■答え (5名)
■当選者 5名
水野しづ(岡豊町)
公文千恵子(後免町)
小田寛満(浜改田)
山岡千津(里改田)
岩川 勝(園分)

先生に想う 竹内富二枝(稲生)

先日、南国市立稲生小学校PTA(浜田善守会長)主催による「一日先生」の講師として、楽しく有意義な一時を過ごさせていただきました。

日ごろ、教育とは、学校と家庭そしてそれを取り巻く近隣社会全体で行われ、その責任も社会全体で負わねばならないと認識しながらも、つい仕事に追われ近隣の子供たちとの接触もおろそかになりがちであったことを反省し、ともかく身辺の整理をして参加させていただくことにしました。

わかない工作。二年生は子ども会活動など活発に進めてこられた池森覚氏の「たこ作り」。三年生は農業一筋に生きてこられた橋詰之夫氏による「昔の農業」。四年生はセメント会社に勤める久保周市氏の「セメントの話」。五年生は地域の識者・前田勝三氏による「なわ作り」。六年生は四国銀行稲生支店長の須藤幸衛氏による「銀行の話」と、いずれも教育の専門家でない方々ばかりなのに、吉川裕校長はじめ先生方の心配をよそに、それぞれの組の子供たちは、このにわか先生にびつたり呼吸を合

せて、あつと言う間に一時間を終りました。私の組は、私が子供たちに遊んでもらい、専ら子供たちから学ぶことばかりの授業となりましたが、各組では、自分たちで作った「たこ」や「なわ」を遊びに発展させて欢声を上げた昔の農業の話に勤労の苦しさや楽しさを知り、また、コンピューター時代を常に先取りしていく銀行や近代産業の様子に目を輝かせたり、ビデオ、展示品も交えて父兄、子供、講師ともども和気あいあいのすばらしい学び合いの場となりました。

昨今、農村もいよいよ都市化、情報化していく中において、文化遺産や資源を大切に生物や物質の持つ生命を尊び、工夫し生かす豊かな心を少しでも与えられたとすれば、大成功であったと思えます。

「ほのぼのの広場」に、あなたの身の回りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。
▼投稿先・〒783 南国市大浦甲三〇一 南国市役所内広報委員会まで。

南国歌壇

春一番の風吹き抜けし日だまりに
きおい咲き出づ童たんぼぼ
西島 高橋佐代
かすみ草の白き花束納屋に満ち
夜なべの荷造り息らといそしむ
西島 岡林きよ
一日荒れし春一番の風過ぎぬ
「三嶺」の山菜花もつ頃か
西野田 吉川定子

廻りみる我が生涯に点として
残れる哀しみ曳きすりて古稀
植野 永野美由
残る世を美しく生き暮れなすむ
夕映えのごと燃えて尽きたし
篠原 山本 茂
降り立てば朝の光に薄紅の
花飾しいる梅の幼木
前浜 沢田千恵子

南国柳壇

花見酒飲んでる女が花に見え
前浜 大原正明
試験場日ごろの肥料が実を結ぶ
十市 大家寿恵子
低くてもミニ水仙の艶姿
田村 吉本三恵子
受験すみ今日も賑やか娘の聲弾む
里改田 田所千枝

南国俳壇

風よりも低くかがみて岸を掴む
風吹くたび島傾けて水仙郷
虫出した雷フィリピンの地図を賣う
まんきくも売られ他郷の祭唄
黄蝶の遠きところよ計のつづく
春の天胸いっばいの童女いて

山崎勝子 市民句会
山中楽居 ()
櫻谷雅道 ()
岡田寿子 (花柳俳句会)
福井英子 ()
岡田昌子 ()